令和4年度
第1回藤島地域振興懇談会
会議録（概要）

期　日：令和４年８月26日(金)

場　所：藤島地区地域活動センター　大ホール

第１回藤島地域振興懇談会会議録（概要）

-

○日　時　　令和４年８月26日(金)　１８：００～２０：００

○会　場　　藤島地区地域活動センター　大ホール

○出席委員（五十音順）　12名

池田 玲子、井上 佳奈子、上野 隆一、大沼 恒司、小池 昌和、
今野 良和、齋藤 金廣、齋藤 豪、齋藤 直美、髙橋 俊一、髙山 千代子、
中田 英幸

○欠席委員　　３名

伊藤 公司、齋藤 美由紀、佐藤 智信

○市側出席職員

〈市〉　鶴岡市長　皆川 治

〈市教育委員会〉教育長　布川 敦
教育部長　本間 明
管理課長　清野 健
学校教育課長　成澤 和則
管理課庶務主査　奥山 真裕

〈市地域振興課〉地域振興専門員　齋藤 眞一

〈藤島庁舎〉　支所長　成田 譲
総務企画課長　小林 正雄
市民福祉課長　長谷川 郁子
産業建設課長兼エコタウン室長　上野 衛
総務企画課地域まちづくり企画調整主査　齋藤 優
総務企画課主査　村田 喜栄

○オブザーバー　山形県立庄内農業高等学校　校長　坂井 孝朗

○傍聴者　　６名

○説明・協議

今野会長

今年度第１回目の地域振興懇談会にご出席いただきまして誠にありがとうございます。

本日の懇談会は、昨年来話題にしております藤島中学校改築を契機にして、長期的な視点から教育環境の在り方と、周辺に隣接し老朽化している文教厚生施設を今後どう整備していき、どんなまちづくりを目指していくかという中学校改築とまちづくりをテーマにしております。これまでも、当懇談会の中で協議題として様々なご意見を頂戴しておりますが、

藤島中学校の改築が計画の段階まできておりますので、今年度からは、具体的な検討をスピード感を持って進めていきたいと考えております。

当会の役割としては、藤島地域としての方向性をある程度明確にしながら、今後の協議のたたき台を示していくことにあると思いますので、今日はこれまで皆さんから出された意見を一旦整理して、次のステップへ進めるようにしていきたいと考えております。そういう意味におきまして、本懇談会は将来の藤島地域の教育環境の在り方や、施設整備の方向性を示す重要な懇談会になります。藤島中学校の改築をどのような手法で進めていくか、また、少子化が進む中、教育委員会で掲げている鶴岡型小中一貫教育の考え方などの説明をいただくことになっております。合わせて周辺の文教厚生施設の現状と課題を共有し、今後藤島のどんなまちづくりを目指していくのか皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。

本日は、お忙しい中、皆川市長と布川教育長からもご出席頂いております。私たち地域住民の想いを直接伝えるいい機会でありますので、藤島の将来を見据えた有意義な意見交換の場になればと考えております。皆さん、協議の方よろしくお願いいたします。

皆川市長あいさつ

おばんでございます。本日は令和 4 年度の藤島地域振興懇談会ということで、今野良和会長、また各委員の皆様、大変お忙しいところご出席を頂きまして誠にありがとうございます。また、加藤鑛一議員、黒井浩之議員、傍聴の皆様がお見えですが、これからの地域の振興について有意義な意見交換となることを期待しております。

先ほど今野会長からお話がありましたが、今日のテーマにつきましては、藤島中学校改築とまちづくりになっているところです。この藤島地域は先日、藤島中学校の剣道部が全国ベスト 16 に入ったと伺いまして、非常に素晴らしい、過去最高の成績ではないかと思いますが、これは伝統の力なのではないかと感じております。獅子踊りにしても神楽にしても素晴らしいものがあり、昨年ダイドー日本の祭りに古郡の神楽が取り上げられておりました。本当に素晴らしいものが各地域で保全され、また Hisu 花のイルミネーションも頑張っていただいておりますし、庄農うどん、これも先ほど成田支所長から非常に評価されたということで伺っております。また 9 月から 4 回目のシーズンということで展開されるわけですが、そうした素晴らしい地域資源があるわけでありますけれども、人口を見ますと、平成 17 年の合併時は 1 万 1 千人くらいこの地域にいたわけですけれども、10 年後の平成 27 年では 1 万人くらいに対して、現在 9,500 人くらいでしょうか、各地域で人口減少の波が来ておりまして、このことについては中学校の児童数についても大きく影響を与えているところでございます。この藤島中学校は築 54 年ということでありますので、この改築が喫緊の課題なわけですけれども、これに合わせて藤島の文厚エリアも含めて、東栄、八栄島、長沼、渡前それぞれのエリア、そのネットワークをどうするかということも含めてしっかり検討していく必要がございます。

今鶴岡市では朝暘五小の改築を進めていくことになっておりまして、9 月の定例会の議会

に契約承認をお諮りいたします。これは本体の改築と機械と電気など30件くらいの大きな事業でありまして、藤島中学校についても非常に大きな事業になると考えております。それに合わせてこの地域づくりをしっかり進めていかなければいけないと思っております。また教育委員会の方では、小中連携から小中一貫ということを先日の総合教育会議でも説明頂いておりますので、今日、皆さんの方にもその点について説明があると聞いております。そして、私の市政の進め方でぜひ今日委員の皆様、傍聴の皆様おりますけれども、市民参画ということで、更に進めていきたいと思っております。今日、市役所は、地域振興課と藤島庁舎の市長部局の方と教育委員会の方と、いろいろな分野がこの改築と地域づくりに関わってまいります。今日おいでの町内会、商工会、PTA、本当に様々な皆様が、関わってまいりますので、ぜひ多くの方からご意見をお寄せいただきましてしっかり進めていきたいと思っております。

旧鶴岡市と、旧町村がともに発展するまちづくり、そして人口減少の話をいたしましたけれども、子育て世代、若い世代に選ばれるようなそういうまちづくりを進めていかなければいけないと考えております。鶴岡市の中でもモデルとなるような取り組みを期待するものでございますので、ぜひ活発な意見交換をお願い申し上げまして、私からのあいさつとさせていただきます。

布川教育長あいさつ

皆様こんばんは。教育長の布川敦でございます。

本日ご参会の藤島地域振興懇談会委員の皆様には、日頃より教育行政全般について、ご指導、ご助言を賜り、誠にありがとうございます。

また、私事ではございますが、平成１７年からの４年間、渡前小学校に勤務した折に、布川の姓を名乗っているものですから、いつも「藤島出身だが」とお声をかけて頂きながら、地域の皆様とともに学校運営に携わることができました。重ねてお礼申し上げます。

実は、本日、明日と第70回の日本PTAの研究大会が山形県、10箇所に分かれて行われております。今日はタクトで第7分科会、社会教育につきまして分科会がありまして、東栄小学校の獅子踊りをアトラクションで披露していただきました。非常に大きな拍手を受けていたということで、参加された方々からは「伝統芸能を持っているところは強い」との声をお聞きしました。やはり藤島の獅子踊りなどの伝統芸能を用いて大人と子供が人づくりをしっかりやっているというところは、「うまいな」と私も思った次第です。ぜひこれからも頑張っていただければと思った次第です。

さて、今年1月の藤島中学校の天井部材の剥離落下事案につきまして、生徒はもちろん地域の皆様に大変なご心配をおかけしました。私も立ち会いましてすぐに専門家による校舎の全点検を実施し、危険個所の修繕と安全対策を取らせて頂きました。また、類似する他校の点検も全て完了し、必要なところは修繕を行ったところでございます。今後のこのようなことのないように気を付けてまいりたいと思っております。

さて、本日の懇談会では、喫緊の課題であります藤島中学校改築や、藤島地域の教育環境の現状や課題、また、本市が取り組もうとしている「鶴岡型小中一貫教育」についてご説明させていただき、次世代を担う子供たちにとって、より良い学びの環境はどうあるべきか、委員皆様のご意見を拝聴いたしたく参上しました。

少子化に加え、間もなく県立中高一貫校が開校する中、市立中学校の教育環境の充実を図ることは市全体の大きな課題であります。藤島地域におきましても、中学校整備のみならず、藤島の全ての子どもたちが夢をもって学び育つことができるよう、大所高所よりご意見を賜りますことを心よりお願いし、挨拶とさせていただきます。

本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

今野会長

本日はいつもの懇談会とは趣を変えて、市長、教育長を交えて皆さんと意見交換をさせていただくことになっております。大きいテーマとしては「藤島中学校改築とまちづくり」となります。藤島地域にとりまして重要なテーマですので、今日は、皆さんいつにも増して活発な意見交換をお願いします。できれば全員の委員の皆さんから発言をお願いします。

初めに「(1) 藤島地域の教育環境とまちづくり」について協議して参りたいと思います。

事務局よりこれまでの経過、資料１と２の説明をお願いします。

（１）藤島地域の教育環境とまちづくりについて

・経過説明　　藤島庁舎総務企画課長　　小林 正雄

・資料１　藤島中学校区の教育環境の現状と課題説明

教育委員会管理課長　　清野 健

・資料２　鶴岡型小中一貫教育の推進について

教育委員会学校教育課長　成澤 和則

※説明内容省略

今野会長

協議の進め方ですが、次第をご覧ください。協議題が（１）、（２）とあるわけですが、今の（１）の説明への意見としては、「いただきたいご意見」として、①、②に記載のとおり、２項目があげられております。時間の関係上、この２項目の観点から、委員それぞれからご意見をお願いしたいと考えております。発言順は特に設けませんので、ご意見、ご質問がある方は挙手願います。もしいないようでしたら、私の方で順次指名させていただきたいと思います。それでは、どなたか、口火を切っていただければと思います。

委員

小中一貫教育で期待されることとして記載されていることはメリットばかりであって、

実はデメリットもあるのではないかと思います。私自身も長沼小学校の統廃合に関わってきましたが、鶴岡市の教育方針というのは児童数が減ってくると複式学級になってこれを解消しなければならないという傾向が見えてしまいます。今日の小中一貫校の問題も確かに中学校の改築という問題もあるわけですが、児童数が確実に減っていくという中での一つの考え方と率直に感じたところです。

子供を育てるという意味で大きい学校かいいのか小さい学校がいいのかは長沼小学校の統廃合で議論しましたけれども、そういう問題だけでなくて小中一貫校というのは、その議論から離れた教育の在り方を示していると思うのですけれども、内容については理解が難しいかなと私は思いました。

今野会長

私たちは小中一貫校とすぐ言われてもピンとこないところがあるのかと思います。しかし、子供の数から考えていけばどういう選択肢があるかということで、その選択肢の一つに小中一貫校があるということだと思います。先ほど成澤学校教育課長から説明があったように、すぐ小中一貫ということでなく、いろいろな形のやり方があるという話でした。これについて他の委員の皆さんいかがですか。

委員

教育のことはわからないなりにも、中高一貫校が令和 6 年から出来上がるということが決まったばかりで、今度は小中一貫校ですよと言われて、なぜ急いでこんなことをやっていかなければならないのかというところが素朴な疑問です。たぶん、人口減少で児童数がどんどん減っていって複式学級が発生するだとか、1 学年に 1 つの学級しかなくなるだとか、教育上効率が悪いというか学力が上がらないという状況が目に見えているようなことから何とかしなければいけないということだと思いますが、藤島では優先的に中学校の改築をしなければいけないところに、今度は小中一貫校という新たなものが一緒になって、ドラスティックにガラッと変わる気がして、なぜこんなに急ぐ必要があるのかという気がします。説明がきれいな部分だけで、本当のところがどうなのかよくわからないと思いました。なぜこれをしなければいけないのか、もう少しそこを説明頂きたいです。

成澤学校教育課長

この小中一貫教育は、藤島地域だけでなくて鶴岡市全体での考え方でございます。先ほど学校教育の現状と課題の折に、課題としてお話しさせていただきました。一番は小学校から中学校に上がるときの中一ギャップという言葉で説明させていただきましたが、これは子供たちの中で小中の段差がありまして、この段差をうまく乗り越えることができなくて、中学校になって不適応をおこしてしまうということが顕著になっております。先ほど数字も申し上げましたが、不登校の児童生徒が最近増加傾向にあります。特に中学校に上がるとき

に増え方が大きく、昨年度の数字で言うと中学校1年生になって新規に不登校になった数が35人いるということで、その増加の幅も大きいため、やはり中学校に上がるときの段差を解消していきたい、そしてうまく適応して中学校生活を送りながら、当然学力の向上、それから社会性も向上させていきたいというのが一つでございます。

それから今、社会性というお話もさせていただきましたが、やはり規模が小さくなっていきますとどうしても交流の機会が少なくなっていくというのがあります。何も小学校だけでの交流というのではなくて、本当に 9 年間一緒に活動していくということになれば、幅の広い縦のつながりのある交流というのが期待されます。その交流の中で社会性がよりよく育っていく、それから小中一貫校の学校のメリットとしてお聞きするのは、特に中学生の心が非常に安定するということです。先日も新庄の義務教育学校の視察をさせていただいたのですが、その学校では、中学生の心が安定しているので、問題行動、不登校数も非常に少ないというお話も聞いてきたところです。まず一番は本当に小学校、中学校の段差解消、垣根を無くしていって子供たちが小学校1年生から中学校3年生まで9年間でよりよく成長できることを目指していくのが今鶴岡市において必要なのではないかということを教育委員会では考えたところでございます。

委員

そうしますと、例えば藤島の場合は、藤島小学校があって、東栄小学校があって、渡前小学校があって、藤島中学校で一つになるわけなので、これはおっしゃるような段差が出るのは理解できます。それを無くするということは、小学校は大きなエリアで1校だけ、中学校も同じエリアで1校だけという考え方になるのですか。

成澤学校教育課長

いいえ、必ずしもそういう形は考えておりません。先ほども申し上げましたとおり、藤島地域は、今現在、小学校も3校、中学校が1校ということで、当然今も連携教育というのは進めております。それを少し進化させた形で、9年間を見通した子供の成長を小中が共有して、そして小学校、中学校での共通した取り組みをもっともっとしていけないかという、まずはそこからスタートしていきたいと思います。

あとは、いろいろな一貫教育を進めていく中で、例えば小学校の規模が小さくなってきたということで、統合しましょうという声が上がってくれば、当然教育委員会としては、考えていかなければならないと思います。最初から統合ありきという考えでの小中一貫校の計画ではありません。

委員

そういう言い方ではわからないです。いっしょにするならそれはそれで一つの話であると思いますが、別々にすればそれはどこかで段差が出るのではありませんか。要するに勉強

する学校の場所が変わると不登校が出てくる可能性があるから、それをいっしょにしましょうという話なのですよね。本当にそうなのかは私にはわかりませんし、考え方としては頷けないこともないですが、まだちょっと理解できないです。

成澤学校教育課長

それでは資料２-２の学校の絵が描いてある部分を見ていただきたいのですが、先ほど申し上げた小中一貫教育を既存の 11 ブロックでまずやっていくというイメージは、上の方に描いてあるこんな形で進めていくということになります。

それで中高一貫校の設置ですが、設置形態を大きく分けると２つの形態がございます。一つが併設型と呼ばれる形態で、これは、小学校、中学校にそれぞれ校長がいて、二つの職員組織があって、一貫教育を進めていくという形態になります。もう一つの方が義務教育学校ということになって、こちらの方は校長が一人で、一つの職員組織となります。

それから場所については、例えば小中一緒の校舎にするというのが、施設一体型という風に呼ばれているものです。必ずしも施設一体型だけでなくて、施設が分離したり、隣に建っているという併設型の一貫校もあります。施設一体型のメリットもありますし、施設分離型でも児童、生徒の交流をたくさんやっていることによって小学生、中学生のつながりが深まって、段差の解消にもつながっていくということにもなります。

布川教育長

今各中学校ブロックごとに小中連携ということで進めてきたわけですけれども、やはり小学校６年生から中学校１年生に入るときの情報交換とか入学説明会とか体験学習とかそういうようなものでの中学校生活への円滑な接続を目指すという形で今まではやってきました。でもやはりそれだけでは足りないということになりまして、鶴岡市全域のブロックの中で小学校６年、それから中学校３年の９年間を貫くそういう教育をしていかなければならない、教育課程も含めまして接続的に、系統的に教育をこれからやっていくということであります。児童、生徒の情報交換や計画的な交流だけでなく、学習指導とか生活指導を含めまして９年間一貫した教育をやっていくということです。もちろん各小学校の特色、中学校の特色もあるわけですので、すべて一貫してやっていくことは、それはなかなか難しいと思いますが、そこで最大公約数で考え、例えば１つの中学校に３校の小学校から入学するというところもあるわけなので、それぞれの共通的なところをしっかり一貫として中学校につなげていき、できるかぎり中学校に入学した時の環境の変化、学習の変化というものを最小限にしていくということで、小中一貫教育ということをこれから進めていこうということで、提案させていただきました。

委員

なんとなくわかりました。つまり物理的に小学校と中学校が一緒になって同じエリアで

勉強するというのではなくて、基本は今と同じような形で小学校が存在して、教育の一貫性というより仕組みというか教育の理念というか、こういうものが一本筋が通りますという話ですよね。

布川教育長

今おっしゃったとおりです。基本的な教育の制度をしっかりと小学校、中学校一貫して取り組めるように、今後強化していきましょうということですが、ただ、校舎建築ということがからんだ場合には、やはりそこで小学校、中学校の一体型の義務教育学校を作るということでは絶好のチャンスであると言えます。例えば、新庄でも２つできましたけれども、小学校が３校統合されて、中学校といっしょになって、義務教育学校が２つできております。300 人規模と 600 人規模の学校です。やはり、そういう機会があれば、義務教育学校にもチャレンジしていくことも一つの選択肢でございますので、藤島地区だけでなく、鶴岡市内全域の中で、校舎建築にからんで、一体型の義務教育学校を作ってみたいというようなところがあれば、教育委員会としてもご相談にのらせていただければと思っています。

皆川市長

今、布川教育長と成澤課長からお話ししたとおりでございますけれども、私の理解でも必ずしも義務教育学校という施設一体型が小中一貫教育ということではないというのがこの資料２の絵のとおりでございます。

教育長からお話がありましたが、これから藤島中学校の改築に進んでいく中で、市長部局と教育委員会の役割分担があるわけですけれども、先ほど申し上げた朝暘五小、これは放課後児童クラブ、いわゆる学童を合築するということで、進めていこうとしております。この放課後児童クラブは市長部局で言えば、健康福祉部の子育て推進課というところが担当課になっております。したがって藤島中学校の改築にあたって、その際にどういったものを合わせた機能を持たせた方がいいのかということをぜひ議論をしていただきたいということでございます。計画が進んでいきますと、通常であれば朝暘五小も学校だけの改築となるのが通常なわけですが、現状の放課後児童クラブも非常に建物が狭い中でやっておられ、コロナの中で大変な状況でありました。そういう状況を踏まえて朝暘五小については、学童を合築するということにしておりまして、したがって藤島中学校もただ中学校の改築とするのか何かプラス α というかどういう風にするのかということも非常に大きな改築事業となりますので、ご検討いただきたいというものでございます。

今野会長

今、教育長と市長の方から現段階での考え方が示されました。藤島中学校が改築の時期にきているわけですが、無理やり小中一貫校で何が何でも一つの学校にしていくということではなくて、いろいろな選択肢の中で、藤島地域がどういう学校を目指すかということをま

ず議論して頂きたいということで、今日皆さんからご意見を頂いているわけです。

委員

私は藤島中学校の PTA 副会長もさせて頂いております。ちょっと脈絡が無いかもしれませんが、渡前と東栄の 2 つの小学校の合併、鶴岡型小中一貫教育という考え方、藤島のまちづくりということ、これらの問題が全部入っていると思いました。

ちょうど中学校改築というタイミングでこのことを考えることになると思いますが、学校を作ることは本当に何十年に一度の大事業です。子供達の話はもちろん大事ですが、まちづくりの面から考えると、少子高齢化になっている中で藤島に住んでいる各世代の人たちが楽しく住んでいけるまちじゃないといけないので、中学校のことになんとか絡めて、綺麗な施設ができるとすれば中で集える場のようなものを併設していけたらと思うのです。

うちの子たちも今藤島中学校にいますけど、3 年後には卒業して誰もいなくなります。地域の人はずっと住んでいるわけなので、この人達自身が楽しめる街にしていく中でこの学校がどういう形で絡んでいけるのかなと思います。私たちがそれらをイメージできる範囲というのは限られていると思うので、まちづくりや教育のプロとか、あとは住んでいる人たちから意見を出してもらうのが一番いいと思うのです。そこにはコーディネートする人がいないとどうやって出したらいいかもわからないし、それぞれ自分の仕事や活動がある中で、このことについてどう思うかっていうのは、どうやって吸い上げるかも分からないっていう部分もあるので、そこにプロの目線で私達が考え付かないような提案があって、それに市民がどう思うかでブラッシュアップしていけるような形が必要なのかなと思います。一大事業なので、後から失敗だったという風にならないようにしなければいけないと思いました。それで成功すれば、それが一つのモデルとして、市街地とは別の郊外地の参考になると思うし、モデルになれば素晴らしいなと思いました。

あと、中学校のギャップについて、身近に中 1 で不登校になった子がいるので、ギャップをすごく感じています。昔から、小学校から中学校に上がるのはギャップだったしストレスだったと思うのですが、今になってなぜ急に増えるのかと不思議に思います。昔は中学校の規模も大きく、自分の時も 5 クラスありましたが、中一ギャップに悩む人がどれくらいいたのかはわからないですけども、今ちょうどコロナの関係で、中学校の見学や 1 日入学などもなかったりしたので、急に行って環境が変わったということは確かにあると思うのです。急に増えた原因は、いろいろなことがあるのかなとは思うんですけども、それはちょっと奥深いものなのかなって思うし、何があるんだろうと思います。それはそれで深い問題だと思います。

藤島に関しては、改築が絡んでいるのでチャンスになるのかなと思います。例えば朝暘五小は今建てれば鶴岡二中との一体型はちょっと難しいって話になりますけれども、藤島は小学校も中学校もある程度古い段階なので、併設でなく一体型はチャンスだと思います。それと合併は別のお話だと思うので、ひとまず藤島小と藤島中の一体型を作って、渡前小と東

栄小は学年に 10 名くらいの児童数なので、後から合併することとなったときに受け入れできる規模の校舎にしておけば、今一気に合併・一体型とするかしないかを決めなくとも、後々吸収できるかなと思いました。

あと小さい学校と大きい学校のメリット、デメリットがあると思うのですが、伝統芸能とかも一つの学校になった時に難しくなるのかなって思いました。

委員

私の年代では渡前小学校から渡前中学校にいったのですが、全員が同じ地域の中学校にそのまま上がるので、何の違和感もありませんでした。

市長の話を聞いていると、併設型がいいか、一体型がいいかの選択ということだと思うのですが、私は小学校を全部藤島小学校として一つにまとめて、そのまま中学校に上がっていく方が、抵抗なく上がっていけて不登校も少なくなるのかなと思います。

あと、渡前小学校も東栄小学校も女性の先生が多いのですが、学校がまとまることによって雇用の場が少なることを懸念しています。ましてこの地域の女性は、都会に出ていく傾向にあり、女性が多い職場である学校の雇用が少なくなるのは困るので何かいい方法がないかと思っています。

今日説明頂いた資料に関しては教育のプロの方が一生懸命考えて出してきたと思うので、私としては併設型でやっていただければありがたいと考えています。

委員

少子化というのはずっと言われていました。ちょっと前まではこんな話が出てくるとは夢にも思わず暮らしてきた感じがします。地域で子供たちを育てる、そういう観点はすごく大事なことだと思います。東栄小学校の獅子踊りも地域の指導者の方が学校に行って教えてくださり、子供たちもやる気を出して 1 年生から頑張っていますので、そういう地域の特色が失われてしまうのがすごく残念だと思うのが一つあります。また、このままの人数では、小学校３つを維持していくのが大変だというのもわかります。中高一貫の話はよく耳にしておりましたが、小中一貫というのは初めて聞きました。昨今の人口減少を考えれば、これは仕方がないことなのかと思います。でも地域と子供たちにとってどれがいいのかについて、予算ありきや効率だけで考えると本末転倒になってしまうので、中１ギャップの問題のことや、子供たちが楽しくいろいろなことを学ぶために必要なことを、この中学校の建て替えをチャンスと捉えて、子供たちのことを考えて進めていってほしいです。

委員

中学校 PTA 会長をしております。子供たちが抱える課題というのは全国的に共通するものだと思っていて、保護者の就労の様式だとか子供を取り巻く環境、情報が遅れていたりとか、交流の仕方だとかで親と子供の質が変わってきている気がします。それに適合した学校

の在り方ということで、こういう一貫教育だとかのお話があるのだと認識しております。

建て替えの問題になると予算が一番最初にくると思いますが、私自身、藤島地域に子供の頃から生まれて育ってきて、いろいろなメリット、デメリットもわずかながら思い浮かんでくるんですけれども、一個人の意見としては中学校建て替えが優先されるのであれば、一体型の建物を建てておいて小学校は今のままとして、ゆくゆく統合とともにそこに子供たちを集めるような形がなんとなくいいような気がします。ただ、地域の問題もありますので簡単には意見はまとまらないと思います。

教育委員会が中心に地域とうまく意見交換しながらいければと思っています。

布川教育長

小学校は統合しない併設型の小中一貫の中学校を作る場合は、後から統合を考えた規模の学校を作ることはできないのです。それが義務教育学校建築の条件です。そのため、建築時の規模で校舎を建築することになるので、何年か後かに統合したいとなっても教室が足りないということになります。

それができればいいのですが、文科省の予算もなかなかそれができないということで我々も頭を痛めているところです。

今野会長

いろいろな意見があると思いますが、我々も小中一貫校というのは初めて聞くことなので、不安もありますし、どうなるんだというご意見が当然だと思います。ただ今教育長が言ったような後からいっしょになる形としてどうなのかはわからないわけです。例えば懇談会の中で、先進的に取り組んでいる小中一貫校のモデル校の方から来て頂いてお話ししていただければピンとくるところがあるのですが、今の段階で説明いただいてもどうなるかという不安とかが、まちづくりを含めて地域としてぬぐい切れない感じがしました。

委員

仕事で新庄の荻野学園におじゃましたことがあって、そこが小中一貫校だったのですが、建物やグラウンドの広大さとか設備がとても豪華ですごく環境がいいなと感じました。これから建てる建物というと鶴岡三中みたいにぬくもりがあるようなものが建つと思うのですけれども、やはり最初から一貫校として大きい建物を建てられるのであれば、その方が私はいいのかなと思いました。

小学校 1 年生から中学校 3 年生までの 9 年間の義務教育を一緒に同じ建物で過ごせるという生徒たちの関り方がすごくほのぼのとしていると感じました。私の視点がちょっと違うのかもしれませんが、うちは渡前小学校で下の娘が支援学級にいました。その時、6 年生で一人入ってきましたが、1 年生から 5 年生までずっと一人で過ごしました。荻野学園には全部の地域が集まっているので、支援学級の児童も多くて、その中での保護者の関りや、進

級していく中での悩み事の共有とかが期待できると思い、すごくうらやましいと感じてきたところでした。

委員

少子高齢化社会ということで致し方ないのかなと感じたところですけれども、藤島中学校建築が昭和 53 年でその時私は中学 3 年生でありました。中学 1 年の時に中学校が合併して、北校舎、東校舎、南校舎ということで、生徒数が東北一の中学校であると記憶しております。古い藤島中学校は木造でしたが、中学 2 年の時、同じクラスの子が飛び跳ねて床が抜けた記憶があります。そして今の中学校ができたときは、コンクリートでなんかジメジメしていて、階段の壁などはべとべとしていたことを思い出しました。

私は学校教育はよくわかりませんが、社会教育で長沼にはボーイスカウトがあり私も携わっておりました。そのボーイスカウトでは小学生から中学生、高校生まで範囲がございまして幅広い年代の交流をしてきたところでありますし、よき社会人を目指してキャンプや日頃の訓練などの活動を行ってきました。その中で、小学生は、中学校・高校生から面倒を見てもらい、高校生は逆に小学生と関わることで経験を積めるというような幅広い世代間交流を目の当たりにしてきました。私は小中高一貫でもいいと思うくらいですので、小中一貫校は進めてもらっていいと思います。統合になった長沼では昨年から放課後子ども教室をやっているところでありまして、すごくいい雰囲気です。統合になってもこのように地域で交流はできるので、いろいろな課題はあるかと思いますが、進めてもらっていいのかと思います。

今野会長

この 1 番目の議題の中で、藤島中学校周辺の文厚施設、これの将来の在り方というかまちづくりの観点からご意見をいただきたいと思っていたのですが、どうしても小中一貫の方に集中してしまいますが、こちらの藤島中学校の改築に合わせた施設整備についてまちづくりの観点からご意見がありましたらお願いします。

委員

私も藤島小学校から藤島中学校に入り卒業しております。ちょうど小から中になる時に、私は藤島小学校だったので、半分が同じ藤島小学校で、あとの半分が渡前、東栄、長沼という感じで、全体で 1 学年 200 名くらいの規模でした。その時感じたのが、地域の特徴というのが子供ながらあり楽しかったのを覚えています。時代が変わり世の中がものすごく変わりました。鶴岡市の財政のこともあると思いますが、私の意見としては小中一貫校で行うのであれば、今このタイミングでは、併設型を選択して中学校は新しく建て替えして、数年、数十年すれば今度は小学校の老朽化で建て替えとなるので、その時期のタイミングで 3 つの小学校が統合して一つの新しい小学校になって、中学校と並んだ形の併設型の小中一貫

校になるのが、理想的なのではないかと思って皆さんのお話を聞いていました。今急いで施設一体型というタイミングではないのではないかと思っております。

委員

学校に併設する施設として学童が出ましたが、私は、学童は必ずしも一体じゃなくてもいいと思います。学校が好きな子は学校に併設されていた方がいいのかもしれませんが、学校から離れた場所に行くことで心が変わる子もいると思うからです。長沼とかみたいに、地域に戻ってからというやり方もあるのかと思います。

でも図書館は、併設の方がいいと感じました。それは部活が変わってくるということで、将来的に入らない子が多く出てくると思います。そういう場合の居場所として、学校の図書館だけではなく地域の図書館ということで、ちゃんと職員の方がいて、勉強したり、ちょっとした居場所になる雰囲気で、地域の人も使える感じの図書館であればいいのかなって思いました。

今野会長

（1）についていろいろな意見を頂きました。まだまだ尽きないかと思いますが、時間もありますので、次の（2）に進みたいと思います。それでは、（2）今後の進め方について説明をお願いします。

（2）今後の進め方について

・藤島地域教育振興会議（仮称）の設置について

－説明－　　藤島庁舎総務企画課長　　小林 正雄

【資料3を説明】　※説明内容省略

今野会長

藤島地域教育振興会議（仮称）の設置ということで説明がありました。これまでの地域振興懇談会でも専門的な知見のある立場の方を入れての中学校の改築や文厚エリアの整備の検討を早期に行うべきとの意見が出ておりました。

この教育振興会議という組織は、その専門的な位置付けとして、藤島で初めて設置される組織ということのようですが、これについて皆さんからご意見を頂戴したいと思います。ご意見、ご質問がある方は挙手していただき、ご発言願います。

藤島地域で最大の課題でありますので、中学校の改築、更には教育文厚エリアをどのようにして、まちづくり、活性化につなげていけるかということは藤島地域の最も重要な課題だ

と思います。今日の懇談会でいろいろな意見が出ましたけれども、更にそれを深化させて専門的な立場の方も中に入れて教育振興会議を設置したいという当局の考え方であります。これについて意見をお願いします。

委員

各地域の伝統芸能などについてです。小中一貫校になるとどうしても規模の大きい藤島地区中心になりがちですが、統合後も伝統芸能などは地域で一生懸命やる形にすると各地域の施設整備などにも市の方で取り組んでくれると思います。あと武道館については、中学校の部活とスポーツ少年団が使っていますが、「武士道」ということで、古くてもいいと思います。茨城県の「水戸東武館」はもっと古いですが、歴史があっていいと思います。

委員

私も武道館の話ですが、あの武道館は床を修繕しているので、改築でいいと思います。

今野会長

武道館は改築でいいという意見のようですが、現状は歩道に雪が落ちるので歩道が通れない状況がずっと続いているのです。これはやはり問題ですので、これまでずっと議論してきた経緯がありそこはご理解いただきたいと思います。

委員

これからのスケジュール的な部分は、示されたとおりでいいと思います。

いろいろと話がありましたけれどもやはり一つにするのは賛成です。それによって残された施設の改装も含めた有効利用などもきっちり力を入れていただきたいと思います。

委員

施設のことですが、未就学児が遊べるような施設が一つあれば、よそからも人が来て藤島が賑わうのではないかと思います。本当に未就学児が遊べるところが何もないです。三川やソライは人気があるようですが、そういう施設を藤島に一つつくればよくなるのではないかと思います。

委員

教育振興会議の体制のところで、人選ですがあて職はやめた方がいいと思います。やはり教育に意欲の高い人を選んでいただきたいと思います。

今野会長

他に意見がないようですので、今後の進め方について藤島地域教育振興会議を設置して

いくということで、自治会の役員や児童生徒の保護者、未就学児の保護者、あるいは、公共団体の方々から、また専門的に知見のある方々を含めて協議していただいて、提言書という形でまとめていく形でどうかということです。もちろん途中経過については、この懇談会にも報告をさせて頂きながら、共にこの藤島地域の学校教育の在り方、地域づくりの在り方、それについて共有しながら地域を作っていくという形にしていきたいと言っておりますので、この事務局提案で進めることでご了承頂けますか。

委員一同

はい

今野会長

ありがとうございます。反対意見はありませんので、ご了解いただいたということで、今後進めさせていただきたいと思います。

予定より時間が経過いたしましたけれどもここで一旦意見交換を終わりたいと思います。

最後に、委員の皆さんから様々なご意見を頂戴いたしました。それを踏まえまして皆川市長、布川教育長よりコメントを頂きたいと思います。最初に布川教育長よりお願いします。

布川教育長

本当に長い時間、皆様の貴重なご意見を頂きまして誠にありがとうございます。

教育委員会としましては、とにかく子供たちが鶴岡を愛し、地元を愛し、その子供たちの発達をしっかり支えていきたいということでの小中一貫型教育という形で進めていきたいということを考えております。

本当に今日は建設的なご意見を頂戴いたしました。ぜひ教育委員会といたしましても前向きな形で進めて参りたいと思いますので、ぜひご協力をお願いしたいと思います。
本日は誠にありがとうございました。

今野会長

ありがとうございました。続きまして皆川市長お願いします。

皆川市長

本日は大変活発な意見交換をいただきまして心より御礼を申し上げます。

只今、藤島地域教育振興会議ということで、これから更に具体的に検討が進められるということでございますので、今日いただいたご意見も十分踏まえまして今後更に活発な意見交換がされまして藤島中学校の改築等が着実に進むように、私としても布川教育長とともに一生懸命取り組んで参りたいと思います。どうもありがとうございます。

今野会長

ありがとうございました。

最後になりますが私からもひと言申し上げたいと思います。

本日、各委員の皆さんから貴重な意見をいただきました。市長、教育長も含めて出席ということで、皆さんの声を聞いていただけたということは、大変有意義な会議であったと思います。

これから時代は大きく変わっていくと思います。ますます変わっていきます。それを踏まえて、20 年後、30 年後の藤島の在り方、姿、これを私たちは考えていかなければならないと思うのです。来年や再来年の話ではないのです。しかがって今、藤島中学校の改築にあたってどういう形がいいのか、子供たちのためにどういう環境がいいのかということを真剣に考えていかなければいけないということと、それからこの藤島地域は、東田川の郡役所があって中心地だったわけです。教育に対しても大変力の入った藤島ですからこの伝統をどのような形で、これから子供たちに引き継ぐかという大変重要な、今、課題があると思います。そういう意味で教育振興会議という新たな会議を設置して、いろいろな角度から教育の在り方、地域の活性化等々を含めて検討していくということになりましたので、私は期待をしたいと思います。そんなことで、今日の会議は大変有意義な会議になりましたし、皆さんから貴重なご意見をいただいたことにつきまして、重ねて御礼を申し上げて本日の会議を終了させていただきます。大変ご苦労様でした。ありがとうございました。

小林総務企画課長

今野会長、スムーズな進行、ありがとうございました。

それでは、次第の 4 、その他ということですが、事務局からはございませんが、委員の皆さまから何かございますか。

今野会長

これからの懇談会の在り方ですが、これから予定されているのは何月ですか。

総務企画課長

資料 3 では次が 3 月となっておりますが、例年 10 月と 3 月に開催させていただいております。ここには記載ないのですが、次が 10 月で、その次が 3 月ということで地域振興懇談会は進めたいと考えております。

今野会長

10 月にもう一回やるということであれば、その時に学校教育の在り方を含めて、少し専門的な知見のある方から参考人みたいな形で出席していただいて、先進事例などを話して

いただければ、参考になるのではないかと思います。この点について支所長いかがですか。

成田支所長

長時間ありがとうございました。この会は地域振興懇談会という地域全体の課題、振興策を議論する会となっております。今日は、特に市長からテーマを与えられて協議頂いたわけですけれども、10 月に開催予定の懇談会は、例年のとおり次年度の施策であったり、今藤島で必要なことなどを議題にしての懇談会を予定しております。

今、会長から言われた件については専門家を呼ぶのか、あるいは教育委員会でもっと丁寧な資料を出して説明できるのか、そのあたりは教育委員会と詰めさせて頂いて、10 月にはどういった形であれ、一定程度皆さんの方に報告することにさせて頂きたいと思います。

今野会長

了解しました。教育委員会とよく協議して頂いて、どういう形でやるか決めて頂ければと思います。

小林総務企画課長

他にありますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは長時間に渡り協議いただきありがとうございました。今後の地域振興懇談会は、例年通り 10 月と 3 月を予定しております。

新たに設置する教育振興会議に進捗がみられた場合には、その際に報告させていただきたいと思っております。

それでは、これを持ちまして令和 4 年度第 1 回藤島地域振興懇談会を終了させていただきます。皆様どうもありがとうございました。